


⑪小松島市(C12280)

SL静態保存活動調査表(1/2)

SL名称	保存場所	保存開始年月	保存団体	保存活動内容		活動団体		SL活躍の主線区	記事
				作業	回数	代表者	活動数		
C12形式 C12280 S22.7.13 日本車両 製造	小松島市 児童公園 (ステーションパーク)	s48.8 (1973/8)	小松島市 (公園緑地課)	・国鉄時代は運転関係の鉄道OB有志グループが年1回の清掃活動を行っていたが、高齢化によって平成5年頃から保存活動が中断していた。 ・保存活動の中断により劣化が進んでいたが、地元ボランティア団体の	随時	松島会		八王子機関区 新鶴見機関区 甲府機関区 厚狭機関区等 五日市線、鶴見線 宇部線、小野田線など s48.5退役 全走行キロ (793,159キロ)	・h22.10.23松島会20名とOB会徳島支部会員17名で清掃を実施した。 ・h23.3.13松島会15名とOB会徳島支部会員10名で清掃を実施した。 ・現地写真添付
保存の由来				由緒		松島会(代表者が小松島市で鉄工所を経営)はh21年に鉄工・塗装等のリニューアルを実施し、h21.12.23に小松島市主催で記念式典があった。			
<p>・明治・大正・昭和の3代にわたり地域住民の福祉と産業・文化の発展に数多くの功績を残してきた蒸気機関車は、四国鉄道の動力近代化に伴い、四国の山野をばく進したその勇姿も永久にレール上から消えてしまった。小松島市は徳島県の海の玄関口として古くから栄えてきたが、大正2年徳島・小松島間に鉄道が敷設され、さらに徳島本線、牟岐線などの敷設や阪神和歌山航路の開設と相まって四国の東門として急速に発展し、京阪神経済圏との交流が活発である。このように発展しつつある小松島の児童公園に蒸気機関車を保存展示して現車による生きた教材として活用することは国鉄のPR、児童の科学教育、社会の教育上意義深いとして保存された。</p> <p>・保存状態:良好。 ・プラットホーム有り。屋根なし。サビの侵食有り。</p>				<p>・重量約50tの軽軸重タンク機関車。この機は関東地区の支線で長く活躍していたが廃車となり、同機種の活躍していた小松島市の児童公園に保存されることになった。</p> <p>・JR中田駅より車20分</p>		<p>・地図</p> 			

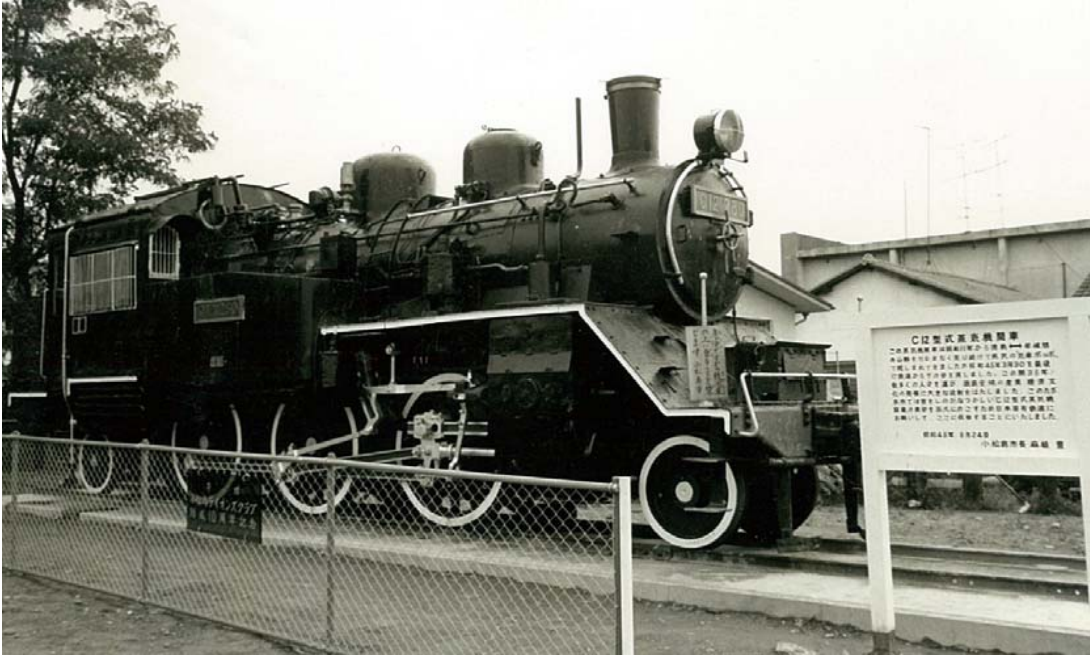
34

⑪小松島市(C12280)

SL静態保存活動調査表(2/2)

現姿その他

35



保存当時



上下段 s57.1

現姿 h23.3.13(清掃)

